

『挑戦者』

南雪谷にヘアサロンを開業し早23年……。人生『挑戦者』であり続けること。自己資金0円……。からの店舗開業。金融機関は門前払い……。今思えば当然のこと。信念を持って継続することが今に。今は雪谷のミユキ協栄会（商店街）の会長を務めています。

商店街は地域にお住まいの方々があつての商売。地元の自治会、お祭り、イベントは地域の皆様とのコミュニケーションの場

でもあり、住みやすく楽しい町づくりも商店街の役割だと思います。昨年には相撲部屋の『武隈部屋』（元大関 豪栄道）が雪谷に開設され、商店街イベントとして武隈部屋の力士をお招きし4年ぶりに『餅つき大会』が盛大に開催されました。獅子舞演奏あり、地元のゆきがや太鼓もあり、そして力士の力餅！新年早々に日本の伝統文化が1日で体験できる縁起の良いイベントになりました。南雪谷自治会の経験豊富な会員様のご協力の賜物です。『餅つき』は世代を超えて教わることが多く、今後商店街と自治会との協力関係を深め、地域を元気に盛り上げていけたらと感じました。

人生は1度限り！今後もチャレンジ精神を持ち様々な事にトライします。仕事、プライベートでも同様に！今、50歳にしてギターベースにトライ！是非！皆様も『挑戦者』に！

（ミユキ協栄会・関根 弘）

雪谷地区の表彰者

○警視総監賞（防犯功労ボランティア団体）

上池上自治会防犯パトロール隊

○生安部長・東防連会長連盟賞（地域安全功労団体）

東雪自治会防犯パトロール隊

○生安部長・東防連会長連盟賞（地域安全運動功労・個人）

直井 明美 大濱 英郎

○田園調布警察署署長・防犯協会会長賞

小原 登美江 中村 孝子

○令和5年度大田区自治会・町会正副会長20年、30年、40年、45年、50年以上在職者に対する感謝状贈呈

森井 郁夫（30年以上）

（敬称略）

自治会ル一記事：東雪自治会 頑張っています！東雪自治会

私が自治会長になり約20年になりますが、東雪自治会には長い歴史があります。昭和12年、当時の町会は雪ヶ谷東部町会と称されていました。しかし、ポツダム政令により町会等が解散され大田区赤十字奉仕団・雪ヶ谷東奉仕団と改称し、赤十字募金活動、災害時における救護活動など町の復興に奉仕を続けてまいりました。その後ポツダム政令が失効し、昭和28年に東雪自治会が誕生しました。

東雪自治会では、防犯（町内パトロール）、文化福祉（寿祝品贈呈）、町内街路及び東雪谷児童公園の清掃、地域の花であるペチュニアの配布など様々なことに取り組んでいます。

特にコロナ禍が落ち着いてきてからは、様々なイベントの再開を通じた地域交流に力を入れています。令和4年11月には、東雪自治会初の「東雪自治会ポッチャ大会」を大田区スポーツ推進委員の皆様のご協力のもと開催しました。8チームでの対抗戦でしたが、好投球があると敵味方なく拍手が湧き上がりました。また今年の8月には、「子ども夏祭り」を上池上自治会と池雪小学校関係者のご協力のもと4年ぶりに開催しました。当日は多くの参加者に、輪投げ・手作りコーナー・ヨーヨーすくい・焼きそば・かき氷などを楽しんでいただけました。

東雪自治会の日々の活動・催しについては町内回覧版、自治会掲示板及びホームページで発信していますので、ぜひご覧ください。

これからも地域の皆様の役に立つ情報を発信してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

（東雪・永久保 孝治）

** 編集後記 **

今年度より編集委員を引き受けるにあたり、前任者から引き継いだ今までの「ふれあい雪谷」を読みなおしてみました。今まで何げなく読みとばしていた記事にもいろいろ気づきがあり、地元への愛着が益々わいてくる思いがいたしました。

これからも皆さんに楽しく読んでもらえる話題を探し、たくさんの方に地元への興味・関心を深めていただけるような紙面作りをしたいと思います。おもしろい情報がありましたら編集委員や事務局までお寄せください。

（笹丸・小林 忠雄）

【編集委員】

笹丸・小林 忠雄／雪谷石川台・手塚 真利子／南雪谷・河野 洋一郎／

東雪谷東中・小山 智恵子／池の台・柏 三八子／小池・小山 憲生／上池上・船山 康夫

ふれあい雪谷(創刊 平成2年12月20日) 年4回発行

(1月・新年号／4月・さくら号／7月・あさがお号／10月・もみじ号／の1日発行)

【発行日】 令和5年 もみじ号 10月1日(通巻 第132号) 発行

【発行】 地域力推進雪谷地区委員会 [編集] ふれあい雪谷編集委員会

【連絡先】 大田区地域力推進部雪谷特別出張所

〒145-0065大田区東雪谷三丁目6番2号 ☎3729-5117 FAX3729-1826

ふれあい 雪谷

令和5年10月 もみじ号 通巻第132号



東雪谷3丁目の坂の上から見た武蔵小杉のタワーマンション群

呑川に向かって真っ直ぐに下る急こう配の坂。見下ろす街並みの向こうに武蔵小杉のタワマン。この辺りは眺望の良さからドラマや映画・CMのロケ地に使われています。

小池・今成 修さんの作品

「ふれあい雪谷」のホームページはこちらからご覧いただけます。



なが〜い歴史があります 「菊づくり」

大田区立大森第十中学校は仲池上二丁目にあり、1947年5月の開校以来、多くの子どもたちが学び樂立っていきました。その十中の特徴の一つにもなっているのが「菊づくり」です。開校以来約70年「生徒」「保護者」「地域の有志」が協力し、途切れることなく「菊の花づくり」を行っています。

「菊の花づくり」はどのように始まったのでしょうか。当時の保護者の方々の思いで、子どもたちが菊の花のように、強くたくましく育ち、大きな目標に向かってコツコツと進み、達成感を感じてほしいと始められたと聞いています。

秋には正門前広場にテントを張り、綺麗に咲いた菊を展示し「菊の花展示会」を行い、生徒、保護者だけではなく、ご来校の皆さまにも楽しんでいただいております。

子どもたちが卒業してからも微力ながらお手伝いをさせていただいていますが「大輪の菊」の花を咲かせるには地域の「名人」のご協力が欠かせません。歴代の「名人」のご協力あってこそ、継続できているのです。

秋に美しい「大輪の菊」の花を咲かせるために「菊の花展示会」が終わるとすぐに来年に向けた準備が始まります。美しい花をつけてくれた花に「ありがとう」と栄養補給の追肥をし「丈夫な新芽を出してください」と願いながら冬越しをし春に備えます。

春になり力強い芽を選び、挿し芽で新しい苗を作り、小さな鉢から大きな鉢に数回植え替えて育てます。新芽はアブラムシの大



好物なので、虫よけの薬の散布や病気予防の処置などを行います。大切な水やりは、当番制で毎日たっぷり水をあげます。手をかけた分だけ秋には美しい花を付けて応えてくれますが、今年のような気まぐれな気候は大敵なようです。

敵なようです。

この様に一年を通していろいろな作業がありますが、美しく咲き誇る菊の花を観ると、とても嬉しく思います。

今年も11月の文化の日近くには「菊の花展示会」ができると思います。綺麗に咲いた菊の花を観に十中にいらしていただけたら幸いです。

(上池上・井田 美由貴)

関東大震災のおもいで

最近マスコミ等で1923年(大正12年)9月1日に起きた関東大震災の事が話題に出ています。私達が住む雪谷石川台自治会の会館を昨年12月リニューアルする為室内を片付けていましたところ、地域内にお住いの早川いとさんという方が、当時の「関東大地震思い出の記」という題目でその体験を書かれた冊子が偶然にも出てきました。この度「ふれあい雪谷」のお話がありましたので、地域の皆様にも、その冊子の一部を紹介させていただきます。

『九月一日は朝から焙りつくような風もなくギラギラとした暑さであった。私は玉川村立尋常高等小学校の六年であり二学期の始業式に学校に行き、十時頃帰ってきた…

乾うどんを二、三束買って来て、昼食をしていると、突然物凄い勢いでドーンと突き上げてから、グラ——と来た、地震だ!!

何時もの地震と全く異う、最初から大型の異常な揺れかたである。これは只の地震ではない、危ない!! 突然に危険と感じた。

「裏の竹山へ逃げろ」と言う母の声より早くヨチヨチ歩きのふじ「〇才」を小脇にかかえ履物など履いている暇もない、素足のまま竹山に素飛び込んだ、続いて母も宗太郎「九才」、とめ「七才」も顔色を変えて同時に飛び込んで来た。

途端にますます激しくなりグオウー、グオウー、ドドドウ、ガタ——、ドドドオンと地の底から異様な地鳴、地響、実に不気味な唸り、轟音をあげて大地を上下と突き上げ、地と地がぶつかり合う激しい音、左右波の如く激しく揺れ動き、空気を震わせ怒り狂った。樹木は凄まじい音を唸りあげて上下左右、今にも倒れんばかり激しく揺れ暴れ狂った。

家はギシギシ——と音を立てて少しずつ、後へ傾き始めた。危ないと思っても一歩も動くことができない。

放り出されまいと竹につかまっていると言うよりしがみついているのが精一杯である…。

もう止むのか、もう止むのかと思っている、止むどころかますます激しくなるばかり、もしかしたらこのまま止まらなくなってしまわないか、否、そんなことはない。始めがあれば終わりがあるものだ、と思っている、しかしこれ以上大きくなったら如何なるのだろう。大地は裂け、天も地もひっくり返るのではないか。

空の方から本家の十二、三本ある大杉の上を抜け飛竜のような巨大な恐ろしい怪物が現れて、人も家畜も一呑みにしてしまうのではないかと、生きた心地もなく此の世の地獄とは真に此の事かと突然襲った大異変の恐ろしさに恐れ慄き一刻も早く止むのを祈るばかりであった…。

どの位揺れたのであろう、三分、四分とすごく長かった。ようやく止んだ時は余りの恐ろしさに人々は度肝を抜かれ青くなり…寸時放心状態になってしまった…。』(原文ママ)

書かれてから45年の間がありますが、その当時の事がより分

かるのではないかと思います、投稿させて頂きました。読みにくい所があるかもしれませんが、想像を膨らませて読んで頂ければと思います。近年に於いても「東日本大震災」(2011年3月11日)他多くの災害が発生しております。二度とこのようなことが起こらないことを願いつつも何時自分にふりかかってくるかわかりません。皆様におかれましても日々の備えを十分にすることが大切ではないかと思います。

(雪谷石川台・大槻 生)



ふれあい ・ ・ ある呟き ・ ・

暑い日のさなか、遠くの友人から相談がありました。友人(町田市に在住、70才代)は、年金受給者を対象に福祉的な活動をしている人です。

ご承知の如く、コロナ感染問題で、多くのサークル活動も、集まりに影響を受け、ひとつ一つの会は、少人数化しました。会に集まる人数が少なくなると、どうしても、親しい者同士の集まりとなります。この状態は、ふれあいの場としては良好な雰囲気となり、喜ばしいのですが、新しく参加する人があった場合、馴染むのが難しいと云われます。特に、中高年の男性からの苦情が多いので、その対策の相談にのってくださいと(孤独感を持つ人が増加)。

また、新しいサークル活動設定の提案はあるのですが、最近では、そのリーダーや、楽しみなく触れ合いの会>にする為に必要

なコンダクター的人物(列車の車掌さんのような役割の人)が不足し、この対策に苦慮していると云います。相談を受けても、その答えは難しい…先ずは、融和を醸し出す人物を見出すく場づくり>が必要かなと<呟き>を以て応答しました。

最後に私事ですが、昨年のコロナ禍の中、頭脳回転の鍛えになるのではと大河ドラマにそった歴史

の楽しい雑談会を始めました。昨年は「鎌倉殿の十三人」、今年は「どうする家康」を題材に、歴史好きにはとても楽しい会です。この様な場づくりが沢山できることを願っています。

(池上 治)

